

岡部(ナレ) 中学生の千佳は、小学校の頃の友人・理緒が通う、かえつ有明中・高等学校の文化フェスタに遊びに来ていた。

澤田(調理部) いらつしやいませーっ！…あ、クッキーいかがですか？

(効果音)地震音、ざわめき、悲鳴

木村(校内放送) 地震が発生しました。慌てずに校庭に避難してください。すぐに担当の教員が向かいます。慌てずに校庭に避難してください。

眞保 千佳、大丈夫だった？…ごめんね、わたしが文化祭に呼んだばかりに。

中林 大丈夫、気にすんなって。それより早くカフェテリアから避難しよ。

眞保 うん。

中山 せんぱーいっ！こっちはです、こっち！

中林 …あの子、後輩？

眞保 うん、同じ部活の子。行こ。(駆け足の音)

中山 先輩も無事だったんですね！よかったあ…それもこれも先生が上手に誘導してくれのおかげですね！ベスト誘導賞を贈りたいくらいです！…あ、こちらは先輩のお友達ですか？

中林 あ、はじめまして。いつも理緒がお世話になってます。

中山 いえいえ、こちらこそ。後輩の早苗です！

眞保 二人！今は緊急事態なんだから！ほら、先生来たよ。

服部 あ、無事に避難できたんだな。さっすが俺の生徒！…んでまあ、俺には早速仕事があるんだよなあ。

眞保 別の場所にいる人達の避難誘導とか、ですか？

服部 そういうのもあると思うんだけどな。こんなの初めてだからよく分かんないし、とりあえず放送に従うしかないよな。…悪いな、頼りなくて。

中山 ほおー…先生も大変なんですね。

服部 あ、そろそろ行かないと。じゃあ、また後で。(駆け足の音)



岡部(ナレ) 地震発生後。ラジオで津波や大火災などの二次災害への用心を呼びかけている中、一旦は校庭に避難した生徒や来客は、場所を変えて校舎の4・5階に集まっていた。

(効果音)ざわめき

田口(ラジオ) 先程の地震についてお知らせいたします。震源地は東京湾。東京23区の震

度は6弱とのことです。繰り返します。震源地は東京湾。震度は6弱です。

中林 でもよかつたね、手回しラジオがあつて。発電機いらずで、すごい便利じゃん。

眞保 だね。結局、電気もガスも水も止まつて、大変な状況だもんね。

中林 まあ数日分の備蓄はあるって言つてたし、大丈夫だよ。…あれ、そういえば、さつき
の後輩は？

眞保 家族と連絡取るとかで、今は別行動中。

中林 そうなんだ。いつの間に…つていうか、電話でもかけに行つてんのかね？こういうと
きは災害用伝言板じゃない？

眞保 それもそうだね。でも災害用伝言板かあ…名前だけは聞いたことあるけど。

インタビュー(災害用伝言板)

中林 うちが使つてる携帯会社は震度6弱から伝言板が利用できるんだよ。ちょっと母さん
に無事だつて報告しとくね。

眞保 あ、そう？じゃあ私も。

服部 おう、お前ら。

眞保 先生！仕事は終わったんですか？

服部 ひとまずいな。お前たちの分の非常持ち出し袋を持ってきたんだ。…ほら。

中林 あ、ありがとうございます。

服部 大事なお客さんだからな。中のもの確認しとけよ。(駆け足の音)

眞保 一緒にチェックする？

中林 あ、うん。

眞保 んーとねえ…水。

中林 あるよー。

眞保 懐中電灯。

中林 あるー。

眞保 乾パン。

中林 …あれ、乾パンがない。

眞保 あー…たぶんね、男子が食べちゃったんだと思うよ。私が分けてあげるから大丈夫。

余震発生。

眞保 また揺れてる…？

中林 余震だよ。頻繁に起こると思うけど。

眞保 …。

中林 ……どうかした？

眞保 ……もう、やだ！どうして文化祭の日に限って、こんなことに

中山 せんばーいっ！ただいま戻りました！無事に家族と連絡も取れました！…あれ、先輩
どうかしたんですか？

中林 ……さっきの余震で、ちよつと混乱しちゃったみたいでさ。

中山 あー…。先輩、元氣出してくださいよ！さっきは、ああ言いましたけど、実はあだし、
家族の誰とも連絡取れませんでしたよ！でもだからって、それで凹んでたら…どんど
ん暗くなるだけですよ！ポジティブに行きましょうよ！どうせ交通機関が回復するま
では帰れないんですから。

中林 あ、それ。電車がいつ頃回復するのか、うちも知りたいし…。

インタビュアー(りんかい線)

中林 ……つまり、意外と早く回復するってわけか。よかったー。

眞保 公共の交通機関だし、すぐに動いてくれると助かるよね。

中山 うちの学校は遠くから来てる人も多いですね。

◆◆◆

岡部(ナレ) 地震発生から6時間。文化祭の雰囲気が残る教室では、缶詰のおかず乾パン、

水という、ささやかな夕食会が開かれようとしていた。

(効果音)ざわめき

服部 二列に分かれて並んでください！人数分の食料は用意してあります！

木村(来客) どうしてこの学校の生徒には乾パンがあって、文化祭に来た客の私たちにはな

いのかしら…。

塩川(来客) 部外者の分の食料はないのかなあ？

中林 うわあ…大変だねえ、里緒の先生。あの人の責任じゃないっていうのに。

眞保 ていうか、体育館のどっかに備蓄があるって言ってたような気がするんだけど。

中山 そうなんですか？だから先生達は災害に対して自信満々なんですね！

中林 なら、どうしてその備蓄を配らないのかって話だけだね。
服部 (小声で)…お前ら、そういうことを大きい声で話すんじゃない。お客さんに睨まれて
るだろ。

中林 何かあったんですか？

服部 ……地震で体育館が少し歪んだみたいでさ、備蓄がある場所への扉が開きにくくなって

るんだ。今、他の先生達が頑張ってるんだけどな。そこが開いたらお客さん達にも乾パンとか配る予定だ。

眞保 …先生こそ、そういうことばかり大きい声で話すのは、ねえ？
服部 バレたか。



中林 で、結局お泊りコースか。

眞保 ま、まあ布団もあったんだし、いいじゃん。

中山 ですねえ。残念ながら全員分はなかったみたいですけど。

中林 …にしても、こんなに大量の布団、どこにあったんだろうね？

眞保 体育館の備蓄と一緒に置いてあるんじゃない？

中山 あたし、前に担任に聞いたことありますよ。確か地下室にあるんじゃないかなったつけ…。

中林 そうなんだ。…てか、何でそんな色々知ってるのさ、君は。

中山 防災に詳しい、『師匠』って呼ばれてる先輩がいるんですよ。



中山 先輩！…いつも学校に来る時、小さなポーチ持ってますけど、中に何が入ってるんですか？

塩川 (ポーチの中身を見せながら)んー…歯磨きペーパー、風邪薬、絆創膏、手回し懐中電灯、爪切り、その他もろもろ。何か災害があった時に使うんだよ。

中山 なるほど、先輩はいつも防災のこと、考えてるんですね…。

塩川 他にも避難所生活になると、新聞紙やポリ袋、サランラップが便利って聞いたことあるし…下着に雨具、軍手、スマホや携帯の充電器、ティッシュ、スリッパとか…揃えておきたいものはたくさんあるよ。

中山 用意周到というか何と言うか…。学校や先生もちゃんと“もしもの時”のことは考えててくれていると思いますけどね…。

塩川 まあ俺の場合は極端な例だけど、個人個人が防災意識を高めるのは良いことだと思うよ。本当に“もしもの時”は、早めの避難が大事だね。

中山 なるほど…。



中林 …へえ、そんな先輩が学校にいるんだ。…さて、そろそろ寝るか。明日はどうなるかなあ。

眞保 おやすみー。

中山 おやすみなさーい。



(効果音)朝っぼいやつ。小鳥の鳴き声とか(笑)

眞保 あ、おはようございます。先生。

服部 おう、よく寝れたか？

中林 まあまあですね。軽くホームシックになりましたが。

服部 そっかそっか。まあ安心しろ。今日の朝に電車が動き出したから。通常のダイヤ通り
ってわけにはいかないみたいだけどな。

中山 おー、ついに！

眞保 何か、あれだね。たった一日なのに、ずいぶん長く感じたよね。

中林 確かに。いつもの生活と違いすぎて結構きつかったし。いい経験にはなったかもしれないけど。…じゃあ、まあ、帰りますか。

岡部(ナレ) 大震災での不幸中の幸い、かえつ有明中・高等学校は、津波の被害には遭わなかった。それでも、テニスコートや校庭に残った液状化の跡は大きい。備蓄が足りなければ、多くの人が空腹に苦しんだかもしれない。この地震での経験を後に生かすことにして、千佳と理緒、そしてかえつ有明中・高等学校の生徒達は未来へ歩みだした。